

Ⅲ 自由回答

男女共同参画に関して、ご意見などがございましたらご記入ください。

※ 回答者から寄せられた意見・要望について、抜粋又は要約したものを掲載しています。

主な意見	
■	女性が損をしている、社会的に地位が低いとあるが男性が割を食うことが見逃されすぎ。例えば、転勤しません（女性）は同じ仕事でも差が出て当然なのだ。残業に関しても男性の割合も多く差が出て当然である。 〈男性、50 歳代〉
■	全くの男女平等は難しいと思う。身体的に女性にしかできないこと、男性にしかできないことがあるので無理になんでも平等というのは違うと思う。男性が育休をとりその間に育児をせずに副業しているのを見た事がある。女性が同じ事をしていたら何と言われるだろう、と思う。 〈女性、30 歳代〉
■	社会の男女平等は徐々には進んでいると思う。更に進めるには男性、女性の理解や正しい知識が最も大切。その為には学校教育はもちろん、その他あらゆる機会啓蒙活動を十分行うことが重要かと思う。 〈女性、60 歳代〉
■	男女が公平かつ意欲的に家庭生活を過ごせたり仕事をしたりするためには、本当の意味で働き方改革がなされる必要があると思う。小さいお子さんがいる方が「早く帰りたいけど、まだ仕事が残っている。」と困っている姿を何度も見ている。なんとか働き方改革が進んで欲しい。 〈男性、20 歳代〉
■	男性女性、また個人各々得手不得手があると思う。それを各々認め合いつつ家事について協力するのがいいと考える。無理強いしてもいい結果は生まれないはず。 〈女性、60 歳代〉
■	男性（特に若年層）も家庭生活に協力している姿を多く見受けられるようになった。ゴミ捨てや保育所への送り迎え等、近所でも男性が多い。ただ、私の主人の年齢（70 歳代後半）になると、まだまだ家庭生活全般を妻任せの方が殆どで残念な気持ち。男性、女性の意識改革が急務かと思う。 〈女性、60 歳代〉
■	無理やり女性の管理職比率をあげるのはやめてほしい。 〈男性、50 歳代〉
■	男女関係なく、職場でパワハラに対しての指導や対応をしっかりする社会になってほしい。結局パワハラを受けた方が精神的苦痛で仕事を辞めることになる。パワハラを受けた者が守られないのはなぜか…おかしいと思う。 〈女性、40 歳代〉
■	参画の意味が分かりにくい。そうする事でどのような世の中になるのかイメージが出来ない。活動も何をしているのか分からず参画する事は良い事だと思うが、どうする事も出来ないと思う。 〈男性、40 歳代〉
■	男女平等、女性の社会進出など、今の時代もっと活発になる必要があると思う。ただ男性だから、女性だからと何かの条例で縛るだけで無く、男性・女性関係なく、個々人の能力に合わせた社会進出ができる、柔軟な考え方を大事に施策を検討頂けたらと願っている。 〈男性、50 歳代〉
■	職場でも学校でも男女問わずパワハラが行われ、パワハラと受けた人が自殺する事件が多数発生している。ともにセクハラを受けた男女が否定してしまう相手に対して疑いの気持ちを持ってしまう。 〈男性、60 歳代〉

主な意見	
■	力がある場では女性は弱い。力がいない教育や知識等の仕事なら活躍出来ると思うが、なかなか男女平等かと問われると難しいところだと思う。私は、女性、子供、老人、障がい者は弱いんだという認識を持って優しい社会であってほしいと願っている。暴力が社会から無くなってからこそ、お互いがいたわってからこそ男女共同になると思っている。 〈女性、50 歳代〉
■	L G B T Qについて、もっと理解を深め、時代の流れにそって対応し、生きていくべきである。同性婚などを認め、それを認めただけでも幸せになれる人が沢山いるから、認めてあげてほしい。同性婚を認めない理由が理解できない。 〈女性、10 歳代〉
■	私は性同一性障害なのだが、名張市内での就活中にそれを理由に内定を取り消されたことがある。到底納得できないものだったが、理解のない職場についたところでしんどいだけだと思い無理矢理自分を納得させた。まだまだL G B T Qの存在を「理解できないもの」として忌避される方は多くその考えも理解できるが、当事者としては非常に生きづらく、その辺の理解を深める研修や取り組みを実施してほしいと考える。 〈女性、20 歳代〉
■	自治会レベルまで落とし込んだ方策を取ってほしい。 〈男性、60 歳代〉
■	明るい未来が想像出来るような、男女共同参画基本計画が策定される事を望んでいる。〈女性、60 歳代〉
■	市政を行っている優秀な頭脳を使ってもっと名張市の人口や観光客を増やす方向にした方が良くと思う。次回はそういうアンケートを望む。過疎化したら男女平等も意味が無い。 〈男性、40 歳代〉
■	今回のこのアンケートの実施に際し、アンケート対象者の上限を 60 才頃までにしてはどうか？せめて、現役世代からの意見をまとめないとこのアンケート結果をどこに反映するのか理解できない。 (統計的に集計・分析に疑問) 私は 60 才までは現役で色々男女共同参画について疑問を持っていた。今では随分改善されている事も多くある。以上の点を踏まえて、このアンケートの目的・方向性を再考してほしいと思う。 〈女性、70 歳代〉
■	各人の責任や意識に任せている現状、相談窓口があっても話を聞くだけで終わっているように思われる。相談窓口に対し、具体的なアドバイスが提案、実行出来る権限を与えるべきと思う。 〈男性、70 歳代〉
■	教育の充実に尽きると考える。 〈男性、80 歳代以上〉

IV 調査結果からみた名張市の課題

1 男女共同参画意識の確立

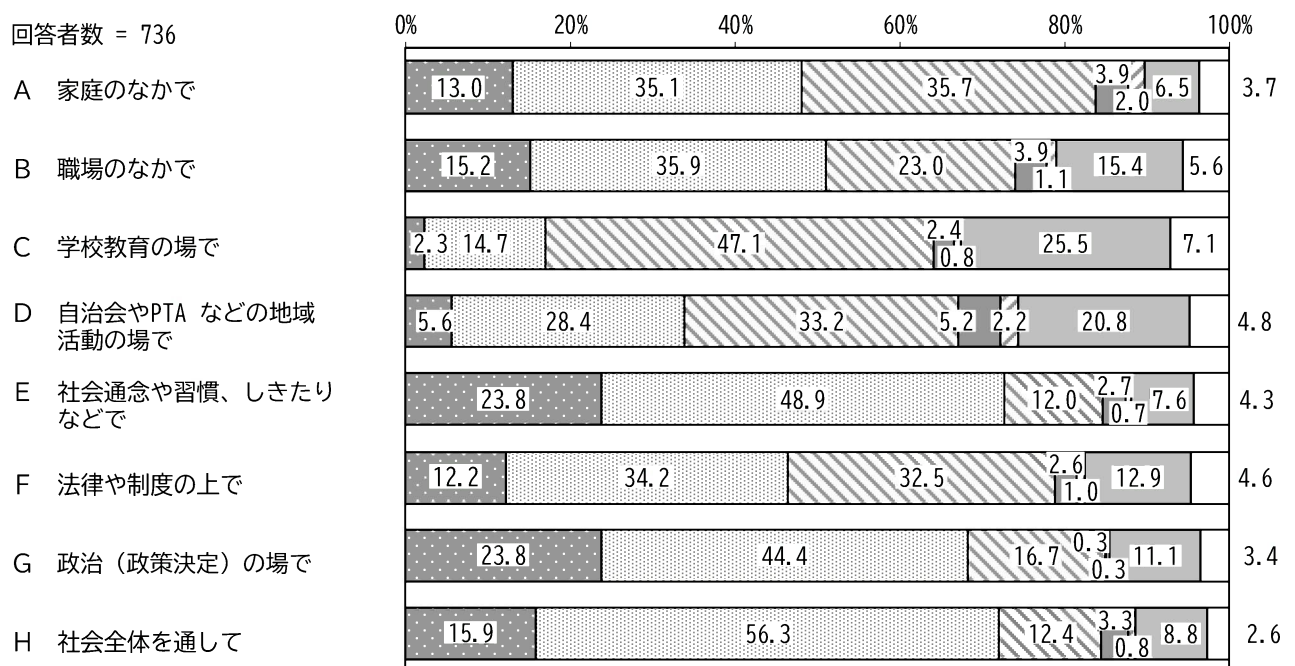
男女共同参画社会に関する事項・言葉の認知度（問 43）については、「名張市男女共同参画推進条例」について、「見たり聞いたりしたことがある」人の割合は1割未満となっています。また、男女の地位の平等感（問 6）をみると、「社会通念や習慣、しきたりなどで」、「政治（政策決定）の場で」で「男性のほうが優遇されている」の割合が高く、23.8%となっています。

社会にこれまで潜在的に存在してきた男性優遇意識を解消し、男女共同参画を推進していくためにも、「名張市男女共同参画推進条例」の認知度向上を含めた、周知・啓発が重要です。

【男女の地位の平等感】

- 男性のほうが優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- ▤ 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- ▤ 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 無回答

回答者数 = 736



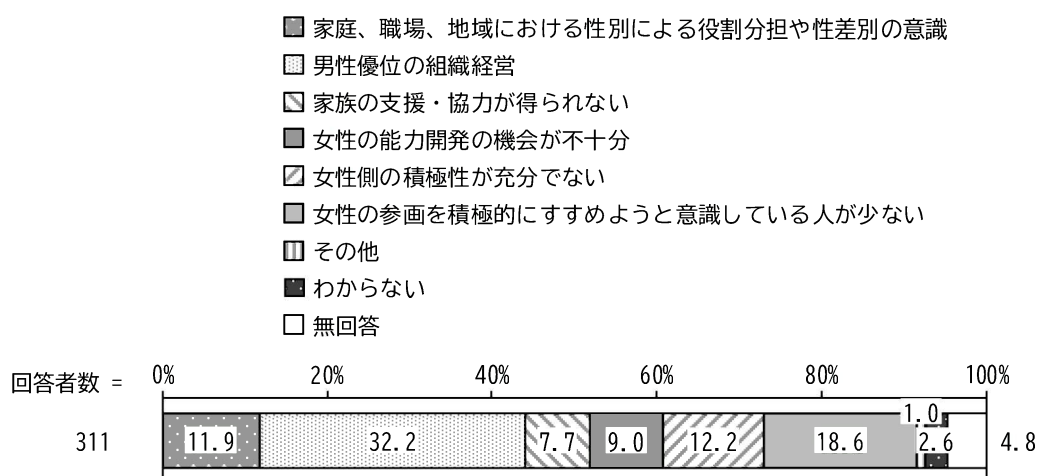
2 あらゆる分野における男女共同参画の推進

地域づくり組織、自治会長や PTA 会長などの役職に、女性の方はあなた自身が、男性の方はあなたの妻などの身近な女性が推薦された場合（問 39）に関し、「断る・断ることをすすめる」の割合が 53.1% となっています。

また、政治・行政・事業所や地域において、政策などの方針決定の場への女性の参画について（問 41）をみると、「少ないと思う」の割合が 42.3%と最も高くなっています。

政治・行政・事業所や地域において、政策などの方針決定の場への女性の参画が少ない理由（問 42）について、「男性優位の組織経営」の割合が 32.2%と最も高く、次いで「女性の参画を積極的にすすめようと意識している人が少ない」の割合が 18.6%、「女性側の積極性が充分でない」の割合が 12.2%となっており、行政における政策方針決定の場への女性の参画拡大に加えて、事業所に向けた女性の管理職への登用や女性の能力開発の支援等が必要です。

【政策などの方針決定の場への女性の参画が少ない理由】



3 ワーク・ライフ・バランスの推進

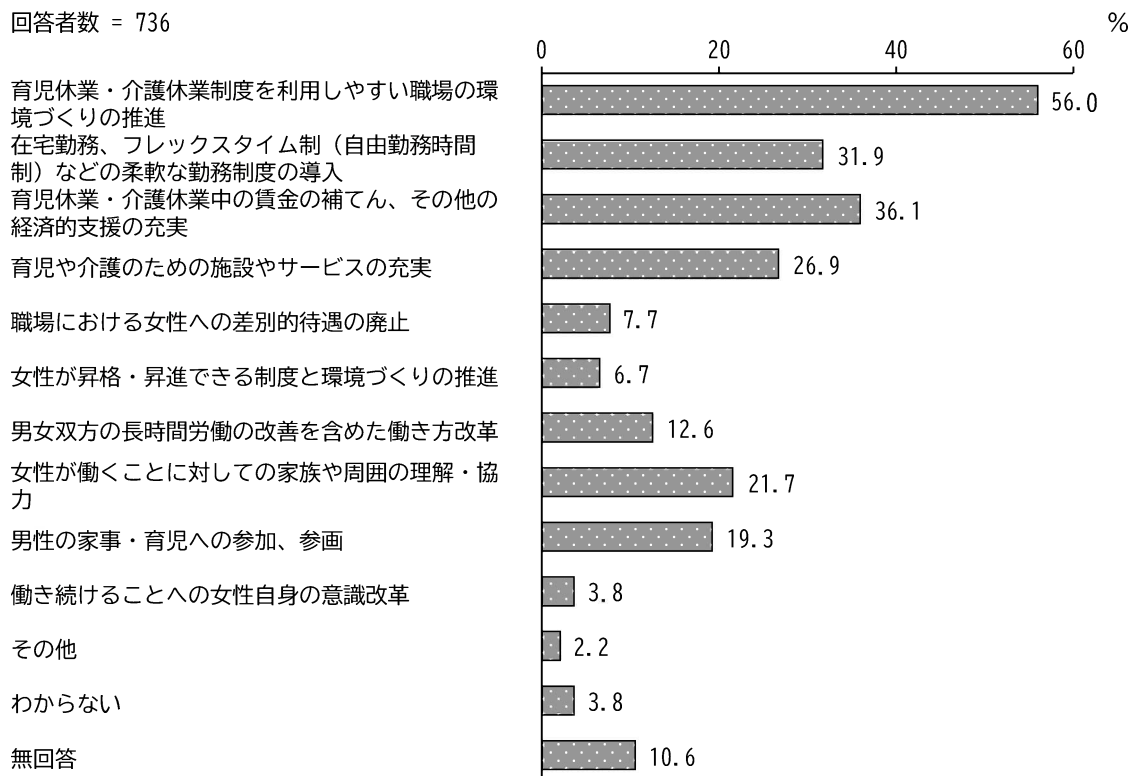
生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度（問 23）について、希望では「仕事」と「家庭生活」とともに優先したい」と答えた人の割合が 28.4%で、最も高くなっていますが、現状では 20 歳代以上について、女性よりも男性の方が「仕事」を優先している」割合が高くなっています。ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を希望しつつも、現実としては特に男性が「家庭生活」よりも「仕事」を優先し、調和が取れていない人が多いことが伺えます。

また、女性が、出産、子育て、介護などの理由で仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思うか（問 35）については、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場の環境づくりの推進」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業中の賃金の補てん、その他の経済的支援の充実」の割合が 36.1%、「在宅勤務、フレックスタイム制（自由勤務時間制）などの柔軟な勤務制度の導入」の割合が 31.9%となっています。

職場で次のようなハラスメントを受けたことや見聞きしたことはありますか（問 36）をみると、「ある」の割合は「パワーハラスメント」で 33.6%と最も高く、次いで「セクシュアルハラスメント」の割合が 17.7%、「マタハラ」で 6.4%、「ドメスティック・バイオレンス」で 6.1%となっています。

【女性が、出産、子育て、介護などの理由で仕事を辞めずに働き続けるために必要なこと】

回答者数 = 736



4 家庭と社会活動の両立支援

男性が育児休業を取ることにについて、どのように思うか（問6）に関して、「積極的に取ったほうがよい」「どちらかといえば取ったほうがよい」を合わせた”取ったほうがよい”の割合が78.4%、と高くなっています。

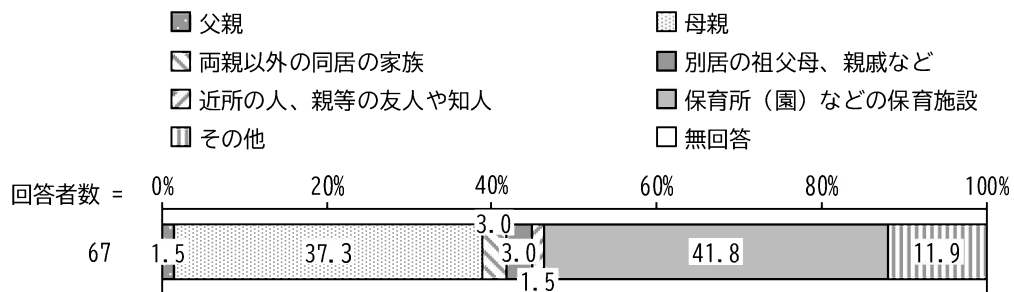
しかし、平日の日中、その乳児・就学前の幼児を主に誰が養育しているか（問20）をみると、「保育所（園）などの保育施設」の割合が41.8%と最も高く、次いで「母親」の割合が37.3%となっている一方で、「父親」の割合が1.5%となっており、平日や仕事のある日の家事や育児、介護の負担が女性に集中している状況が予測できます。

また、地域に住む者として、家庭生活のみならず、地域における役割を果たしていくことも重要です。次のような活動をしているか（問37）についてみると、「生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動」の割合が17.7%、「地域づくり組織などの地域活動」の割合が15.6%となっている一方で、「いずれも参加していない」の割合が57.9%と最も高くなっており、性年齢別にみると、「いずれも参加していない」は女性30歳代では約9割となっています。

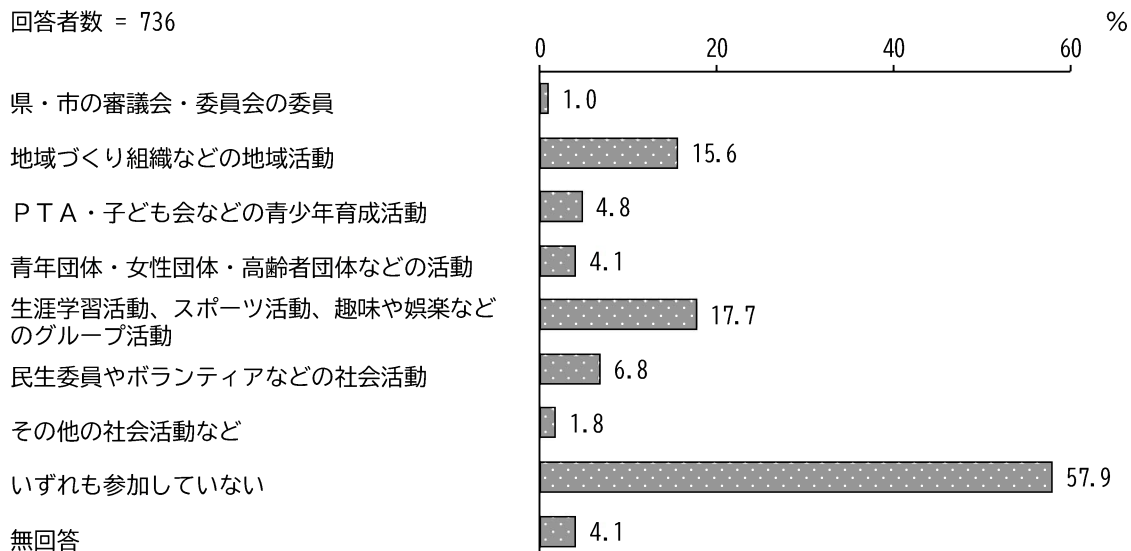
いずれも参加していない理由（問38）について、「仕事が忙しく余裕がない」の割合が28.6%と最も高く、次いで「どんな活動があるのかよくわからない」の割合が26.3%となっています。

家庭生活、地域生活とも、男女のどちらかが担うのではなく、性別にかかわらず一人ひとりがその役割を果たしていけるよう、支援していくことが重要です。

【平日の日中、その乳児・就学前の幼児を主に誰が養育しているか】



【現在、地域活動等をしているか】



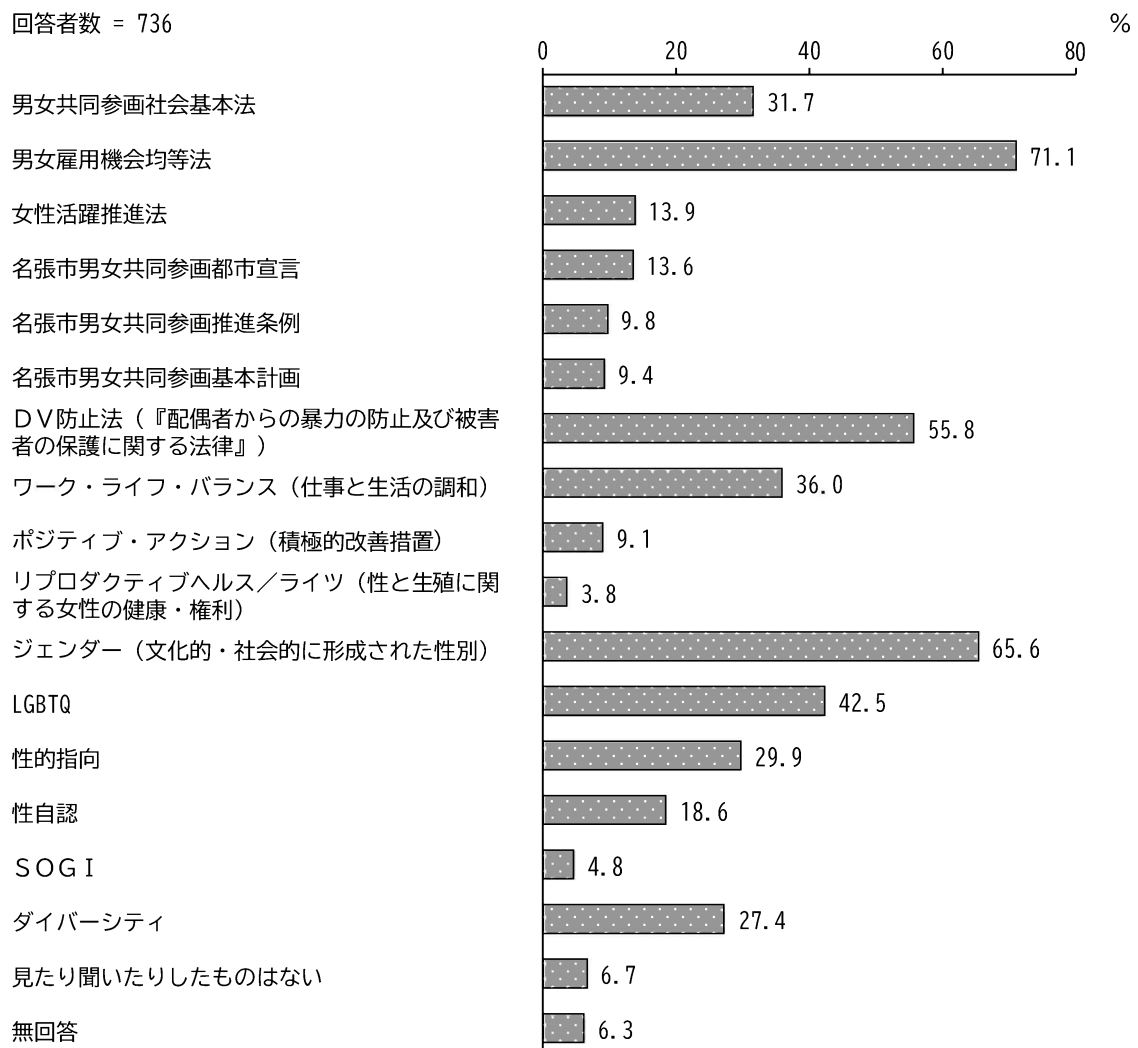
5 生涯にわたる健康の確保

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方（問 12）について、「どちらかといえば反対」の割合が 41.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」の割合が 28.8%、「反対」の割合が 20.2%となっています。反対の理由（問 14）として、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が 65.3%と最も高く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」の割合が 40.6%、「男女平等に反すると思うから」の割合が 39.5%となっています。

また、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」の認知度（問 43）をみると、「見たり聞いたりしたことがある」の割合が 3.8%となっています。大半の方が言葉についても聞いたことがない状況です。

女性が生涯にわたって自分の健康を主体的に確保するために、男女が互いの性差を正しく理解し、一人ひとりの選択を尊重することが重要です。また、男女が健康でいきいきと暮らすためにも、ライフステージごとに存在する健康上の課題に対して取り組んでいくことが重要です。

【男女共同参画社会に関する事項・言葉の認知度】



6 あらゆる暴力の根絶

男女共同参画社会に関する事項・言葉の中で、「DV防止法（『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律』）」の認知度（問 43）をみると、「見たり聞いたりしたことがある」人は 55.8%となっており、約半数がまだ認知していないことから、法律の周知があまり進んでいない状況が伺えます。DVの根絶に向けて、一人ひとりが正しい知識を持ち、暴力を許さない社会意識の醸成に向けた取り組みを進めていく必要があります。

また、DVについての経験（問 44）をみると、男性に比べ女性で被害経験が多くなっています。また、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしたか（問 45）を聞いたところ、「相談しなかった」が 64.0%となっており、周囲や専門機関等への相談に結びつかなかった人の割合が6割を超えて高くなっています。

相談していない理由（問 47）として、「自分にも悪いところがあった」とが 54.4%、「自分さえ我慢すればよいと思った」、「相談しても無駄だと思った」が 28.5%、となっています。問題を当事者間で潜在化させたままにするのではなく、暴力に苦しんでいる人が助けを求めやすい支援・相談体制の充実が求められます。

【DVについて相談していない理由】

回答者数 = 158

